

冬季研修講座「アセスメントについて」

通常学級に在籍している特別支援的配慮が必要な児童生徒の支援について～

今年度も江別市立大麻小学校教諭の高杉祐之氏を講師に、「『アセスメントについて』～通常学級に在籍している特別支援的配慮が必要な児童生徒の支援について～」と題して、登別市民会館会場とZOOMでのハイブリッド形式で講座を行いました。当日は、胆振各地から多くの先生方が参加され、講義を通して研修を深めました。

アセスメントの基礎基本を知ることができました。11の項目の視点が特に参考になりました。作業あり、笑いあり、学びの深い大きい2時間ありがとうございました。



参加者の声

実技を交え、とてもわかりやすい講座でした。ADHD、ASD、SLDのそれぞれの特性をもつ支援が必要な児童に対してどんな授業をしたらよいかがとても良くわかりました。

授業を改善させることが一番の近道という事を最初に聞いて、自分の授業を振り返りながら学ばせていただきました。先生の講座こそ、テンポよく、のめりこんで話を聞いている自分がありました。アセスメントでは、今できていることもあれば、実践してみようと思う事もありました。

どんな授業？

- ADHD 楽しい・緊張がある授業
- ASD 不安が無い授業
- SLD スモールステップがある授業



所長挨拶

胆振教育研究所は、「胆振管内の教育の進展に寄与する」という目的に迫るため、「今、学校に求められていることは何か」、「現場が求めていることはどんなことか」を大切にしています。そして、研究の成果をより使いやすい形で管内各学校の先生方に還元することを心掛けて活動してきました。学校訪問や刊行物の発行、研修講座の開催など、コロナ禍による制限がある中、どうすれば各校の研究や先生方の実践に寄り添うことができるかを考えました。

前例踏襲は衰退につながります。時代の流れに合わせ、研究所の活動も形を変えていかなければなりません。刊行物は、年を追ってデジタル化を図っています。また、すぐに活用できる学校や個人の実践例を数多く取り上げました。調査課題研究では、よりダイレクトに先生方の声が伝わるように取り組みました。研修講座は会場に参集する他に、内容に合わせてリモート参加や配信を試みました。

今後も様々な工夫や変革が必要なことは日々感じています。そんな中から生み出された研究所からの発信が、より多くの先生方の目に触れ、少しでも活用していただけると幸いです。

胆振教育研究所長 坂本 博



研究紀要 (236号・237号・238号) が発刊されました

● 研究紀要 第236号

研究委託校・実践校の研究 社会教育の実践

令和4年度胆振教育研究所の研究委託校・実践校の研究概要並びに社会教育の実践をまとめたものを掲載しています。

各校の児童生徒の実態や今日的課題を踏まえた研究となっております。私ども研究所員も共同研究員の立場で校内研修会・公開研究会に参加させていただきました。

先生方には、本研究紀要の各研究委託校・実践校の研究内容を参考にされ、自校の研修に役立てていただければ幸いです。



● 研究紀要 第237号 調査課題研究

学習評価に関する調査

～アンケート結果の報告と考察～



平成29年3月告示の学習指導要領において、学習評価の観点新たに整理されました。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。そこで本研究所では、見取りの工夫や通知表との関連性、小・中学校それぞれの評価の実際など、学習評価について幅広い視点で実態調査を行い、考察を加えた結果を研究紀要第 237 号としてまとめました。各校のこれからの実践に役立てていただければ幸いです。

● 研究紀要 第238号 教育理論に関する研究

個別最適な学びと協働的な学びの 実現に向けた授業づくり

今年度は研究主題「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」の2年次として授業改善と具体的な実践、各教科の学びのポイントについてまとめました。

本研究紀要を、校内研修をはじめ先生方の授業改善の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

